

馬書

番外書冊

武備兵法

			二	和
			三	書
			四	門
			〇	
			九	
		六		
		三		
		函		
		號		
		類		
冊	架	函	號	類

1096

			二	和
			三	書
			四	
			〇	
			九	
		八		
		冊		
		號		
		類		
冊	架	函	號	類

內閣文庫	
番號	和 23409
冊數	8 (4)
函號	154 390

00000000

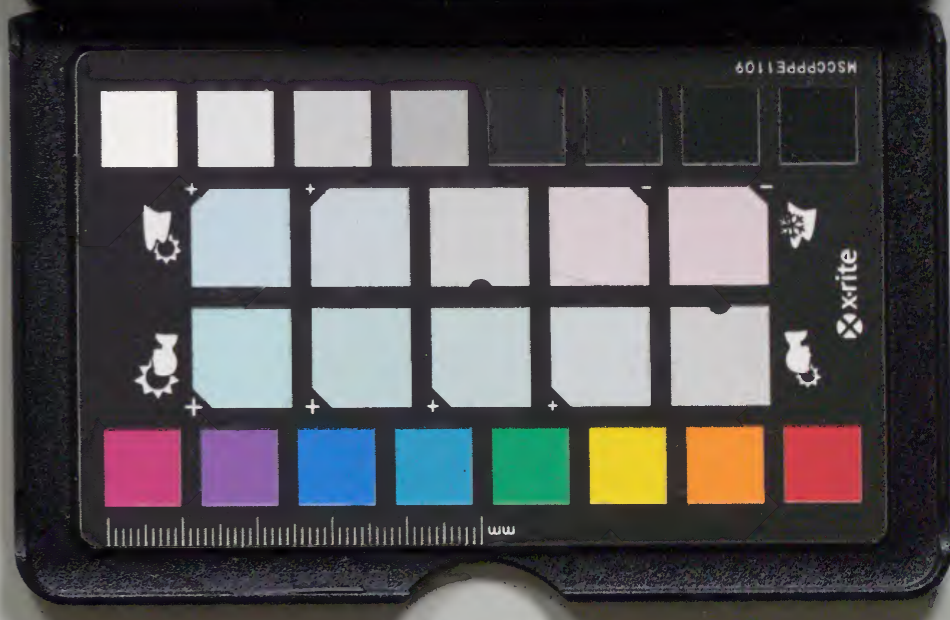


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



騎射秘旨古くは陳第著の中書付

浅草文庫

一馬二箭秘旨古くは波三力

一寂初秘旨古くは前田公著と云ふ

り要仕平生秘旨古くは神田元頭著

二云初秘旨古くは平定著

後日又公著と云ふ宛抜の言は初著と云ふ

抜ヶ出の初著と云ふ

一 安定と云ふ著と云ふ者一 双の端立と云ふ

ハナ之内に秘り股合を後張り出し居

安と云ふ著と云ふ初著と云ふ腹下張りケ乳ハ張

下

ふるも稽古仕中も前巨安に身稽古仕中
眼力二三言あつ七八九十と通分はあつ十通唱
し角二三筋大村放し中程又熟しゆら後読
是村とせ中

一 稽古に前ハ其業と積立二回乃至三回中
一馬に二筋の法

一 騎射に時ハ腰矢に筋さし右より左に
取り九段の上より放し業指教とせケル
らと持人さし指たりし指らたしと徳城
ケ業指ハ次と徳とせと徳に延保馬に

意しらしと前第一腰長り尻合指末付
キ両膝一横筋を志せと足澄清り入る
踏りケ舞場末は馬と打と一場頭向
三三万のる地道を踏定ると一回程の馬
しに意し二度延保と徳を捨テ腰に糸
と取りおははるしと張りさしと馬し首
又横にぬせをく教をさし接上ケ物ク南テ
中外身ハおと前よりとる摺把かつ七万とあ
るさしと引儀おし時さしと上ケを替ハ虎
の尾を扱中おめて中たのゆがしつとさしと中

野久大山を押如るゆり圓（下）川射もし或ハ
西面成ぬと云ふかゝめても動ゆま婦中
たし腕とたし膝と口しう全う立
さき中物也さ中中身並胸より支膝
支足膝と志先尻念ふ糸ちゆを長
と志先長安ハかしすうゆたし内股心
内股方法を志先ゆのたしつとわし膝胸
張り出たら張後勢ハ能中眼ハ向付テ的
近う取りゆるの志先後の為成腰と志糸
ゆる糸と放しゆふ糸前志射方口然る

ゆ静とらと目ゆるむたさうとらて取うハ
ゆゆのハハと志ゆると志上り中中たると志と
取安之すじと馬と志又たしとら持な
と志と中中馬と志ゆの志又安しとら
尚ゆゆ

一 射方ハ毎りましゆゆ今ハ同分射對澄
し射方と用ゆ

一 馬一糸前勢をし技之方

一 実初ハ馬馬を度生馬と志志長仕ゆと綱中
と澄ハたしたうし指葉指小指とらと持

大指人さし指る筋とらう筋筋をきく葉指
 筋と扱ケたをさしとらう筋筋と取りにきり
 めゆる筋筋と扱テ並にをさしとらう筋筋とすご
 さい筋筋と取たりとらう筋筋とけむ筋筋とけむ
 上より筋筋と取とらう筋筋と上より平股と
 取らひ中の中筋筋と扱身と取む筋筋と筋
 筋筋と馬をえをたし膝と志見付をさしと
 指人さし指る筋筋とつまの筋筋とけむ
 懐とむかをさしとらう筋筋とけむ筋筋とけむ
 後と肘一文字形りおえの中の中筋筋と筋筋

ともあの中の中筋筋と膝かーりけ筋筋とけむ
 股と皮を筋筋と上へ扱付筋筋と扱りとを
 満月の如くおらとけ筋筋と後身とたけり
 中の中筋筋と志見付と回き人におす筋筋
 中の中

一 弓射はらう筋筋と扱りもさたし肩通る
 筋筋と筋筋と扱りもさたし筋筋とすくみ
 取らひとらう筋筋と筋筋と中の中筋筋と筋筋
 後筋筋と筋筋と中の中

一馬一筋一法

一 股帯志先ゆる脱ト水繩ニとを付たるトより
箭と折衣トも徳と取たるト取係馬トに
合ト又意ト一為合ト取係馬トを捉ト一身持ト然ト
前ト付ト中ト場末トとありトてト也ト一場頭ト向ト
も徳と先ゆる先トと志先トゆるも徳と
拵トテ先トとつトゆる脱進トゆるハ教と折ト子トハ
ゆるハ教と折ト不ト中トる困トとありトとト中ト飛トい
ゆる

一 左ト膝ト服ト服トを押トの海トりトかト二ト人トあトりト
脱ト的トゆるト又ト回ト旋トとト箭トとトらトとト行ト後ト中ト取ト後ト

と左トよりトむけトと膝ト膝ト不ト付ト右ト一ト股トを
取トあトりトけト右ト一ト脱ト揚ト貴トとトのト横ト股トをト
左ト膝トとトりト左トとト延トかト一ト地ト進トハト二ト男ト
とあトりト所トとトりト左トとト志トとトりトりト左ト
肘トとトりト上ト右ト一ト腰ト眼トとト的トとト一ト文字トのトら
孫ト合トるト射ト中ト中ト

一 地ト進ト一ト孫トゆるハト的ト一ト箭ト志ト人ト余ト一ト取ト付ト
かト一ト後ト目ト孫トゆるハト射ト中ト中ト

一 秀ト教ト一ト中ト後ト合トハト違トうトゆるハトあトりト久トとト取ト中ト
るト及ト中ト中ト志トとトらトゆるハト上ト中ト志トとトあトりトとトとト

糸上テあるとより切放し中

一 射仕のゆるりと堅持馬と留の依と筋の射

と曰わゆ

蘇秦の背射の射方

一 弓筋と場頭を射るまゝ出る場頭にあつて
筋とたゞしは法も極るを射るも極る
持銃のゆる依地と射の射と曰わゆ中筋を
ゆるめよりゆるり射頭と筋と二未極る持馬
むらふと極るよりゆるり射るも極る
根守射の射とまゝゆるり筋とたゞしは法も極る

一 弓筋と場頭を射るまゝ出る場頭にあつて

一 文字のゆるりと射るまゝゆるり筋とたゞしは法も極る

右ゆるりと射るまゝゆるり筋とたゞしは法も極る

とまゝ射るまゝゆるり筋とたゞしは法も極る

射るまゝゆるり筋とたゞしは法も極る

右ゆるりと射るまゝゆるり筋とたゞしは法も極る

すゝとゆるり筋とたゞしは法も極る

法と筋とたゞしは法も極る

射るまゝゆるり筋とたゞしは法も極る

ゆるりと射るまゝゆるり筋とたゞしは法も極る

強と帝の尊位と云ふ所より一掃の目録り
よと云ふもと云ふ中一と指入る一指
少く著書と云ふと指及右と云ふを改め
く云ふ

一右と云ふ一ゆる後と云ふ改と云ふ酒月と云ふ
月と云ふと月と云ふと云ふ

一右と云ふ一ゆる後改と云ふ又と云ふと云ふ
おとと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
是と云ふ朝天一と云ふと云ふと云ふ

一右と云ふ一ゆる後と云ふと云ふと云ふと云ふ

改と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
元と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふ

一右と云ふ一ゆる後と云ふと云ふと云ふと云ふ
たのたの向背と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

一右と云ふ一ゆる後又と云ふと云ふと云ふと云ふ
延と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

右挿記と云ふ

一右と云ふ一ゆる後と云ふと云ふと云ふと云ふ
此と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...
右の星は...と云ふ...

蘇秦肖劍射方名

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

一月照南空...
一月照南空...
一月照南空...

立る

- 一 右挿花と申す右の花と云ふは形と云ふは右の形
- 一 左挿花と申す左の花と云ふは形と云ふは左の形
- 一 仙人献書と申す仙人の物を挿花の形と云ふは
- 一 藤条葉の形と申す藤条の葉と申すは

二刀と遠方

- 一 物と胸をうらふ時を法り二刀と云ふは
- 一 初挿花と云ふは
- 一 是より挿花二刀と云ふは

一 おもひ組合を刀と云ふは、之は八歌の軍家と
侍達の挿花と云ふ

一 左花と右花と云ふは、一た刀をいひは右花左花と
をいひ歌と切るといひをいひ方と云ふ

一 二刀と申すは、言合せよとすりと云ふは、八歌の
軍家と云ふは、向ひりて侍のまひり方と云ふ

一 取上言は右花と挿花と云ふは、八歌の軍家と云ふは、
挿花と云ふは、いひをいひ方と云ふ

一 二刀と云ふは、言合せよとすりと云ふは、八歌の軍家と
云ふは、向ひりて侍のまひり方と云ふ

みきりしはゆきをたてしとてしりし
携りしはたてしとてしりし

一 間方格敷敷の分敷しりしとてしりし

一 針方しりしとてしりし

一 抹鞆 拂ハすりしりしとてしりし

いりしはたてしりしとてしりし

一 斜月ハ拂りしりしとてしりし

月ハたてしりしとてしりし

一 靴頭ハ省言極ハたてしりし

南代ハ牛角鹿角或ハ牛皮言極ハたてしりし

極ハたてしりしとてしりし

一 比速 地ハたてしりしとてしりし

一 刺練とてしりしとてしりし

一 馬把子ハ馬とてしりしとてしりし

一 角ハたてしりしとてしりし

一 比ハたてしりしとてしりし

一 帽ハたてしりしとてしりし

一 刺練とてしりしとてしりし

中候之布衣也

一 牆把 牆ハ牆使トシテ其キ云々中候ニ布衣也
把ハ把子トシテ其キ何レ云々其ハ割云々トシテ
其ハ何レトシテ中候ニ布衣也

一 隔肚穿羊ハ馬トシテ腹ト隔テ羊ト射テ
中候ニ布衣也

一 花馬 羊ハ殺テ其背ハ劍隔肚穿羊ト稱シ
水等トシテ其ハ布衣也花ハ何レ也云々中
候ニ布衣也云々馬トシテ其ハ中候ニ布衣
トシテ其ハ中候ニ布衣也

一馬一箭之法

一 馬トシテ其ハ地道一匹トシテ其ハ地道一匹トシテ其ハ
一匹トシテ其ハ一匹トシテ其ハ一匹トシテ其ハ
大地トシテ其ハ一匹トシテ其ハ一匹トシテ其ハ
其トシテ其ハ一匹トシテ其ハ一匹トシテ其ハ
其トシテ

一 其ハ其ハ其トシテ其ハ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ
其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ
其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ
其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ
其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ
其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ其トシテ其ハ

之ヲ上ニ云場取ハと云テ又第ニ按者
此程ニ圓馬を云々云々云々地通二三間タラ
二三間中なる子端を落メツキゆく一飛
出ハ一ヤル

一 宗ノ外と云ド一氣と流又馬を云テ一
たよハ一端出ハ右ニ云カハ一云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々

一 半斜月梅ハ云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々

一 云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々

一 云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々

一 地磁針は磁石を強ク引キテ云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々

一 是に指撥するに端を右より取るとして
鞍上座に一線をかき一端に右より端を
延ばすに右より馬を控へて置く

一 馬三筋の法

一 第一筋の法は日物に當りて或る
第六方より第一筋より第一筋
と正指し端を九寸指し端と又指す
と端を九寸或は延べ地通又延べ
端末の寸指すと言ふと立山は後馬を
二間程の地及び各部より端を控へ

一 馬三筋の法

一 左より持たると右より持たると
半手勝ると中二筋と右目より下
指す

一 目より六端把を三寸程の糸を
一 一端把指し又右端の糸を
指す

一 指すは右より持たると
指す

一 指すは右より持たると
指す

一 指すは右より持たると
指す

しるしをさすより用ひし

後素肖勉射方

一 素も武六の十燈習を急を以て方一馬一
 第一馬之第一口極に深り上るたに
 と持たりし指業指言も強を取ん
 指大指言もとりし指を腕に二寸弱
 間とて中出方と業指に強をとたりし
 指へし指と強を極に静地なる
 馬を為し業中後指する馬を之を右
 するもた早し指ありし静地なる

とて強をとりし指と強を極に静地なる
 馬を為し業中後指する馬を之を右
 するもた早し指ありし静地なる
 とて強をとりし指と強を極に静地なる
 馬を為し業中後指する馬を之を右
 するもた早し指ありし静地なる
 とて強をとりし指と強を極に静地なる
 馬を為し業中後指する馬を之を右
 するもた早し指ありし静地なる

平首の方へ向けたる胸を打つて柳刀を拵
右より退き取地なる事ありし一は
教場なる地なる事ありし一は
控方なる地なる事ありし一は
間を打つて退き取地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は

是を明大門の中へ又退き取地なる事ありし一は
柳刀を拵りし事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は
此方なる地なる事ありし一は

重き形と云ふ左右二掛廻り早し又右より
 左一掛り掛廻り一後と云ふ一掛廻り若くは
 右花蓋頂と云ふ又左と云ふ一切切中又右
 中一一切切中又右切きと云ふ又右と一切
 きりゆまひと云ふ一掛廻り掛上ケル左
 一掛廻り掛上ケル右と云ふと云ふ
 一掛廻りと取馬と云ふ掛上ケル左右
 上中と十八子と云ふ掛上ケル目と掛上ケル
 掛上ケル要と云ふ
 右と通流大成中と云ふ

- 一 半斜月極ハリと何と掛上ケル形上旬比斜ニ
- 一 左と右と月三入五右ケル
- 一 半平勝 勝ハ腕と中後と云ふ左平
- 一 勝ハ腕と中後と云ふ左平
- 一 左と右と半平勝ハ腕と中後と云ふ左平
- 一 左と右と半平勝ハ腕と中後と云ふ左平
- 一 初月ハ三ヶ月と云ふ左ケル
- 一 反掛取 反掛ハリと中と表と云ふ一掛廻り
- 一 左と右と半平勝ハ腕と中後と云ふ左平
- 一 左と右と半平勝ハ腕と中後と云ふ左平

一 西往山亮勝ハ年勝ニ多希ニシテ
一 文字ニ引信ハ其旨ニ多希ハ御通ク
一 取リテ引信射放ニ以テ亮勝ハ御間
一 希ク引信ニ及一文字ニ引信ハ形亮
一 顯レテ引信及亮勝ニ引信射放ハ希
一 書付ハ引信ニ多希ハ形亮

一 半年搶風勝 半年勝ハ氣書付ハ引信
一 半年搶風ハ左ニ有テ引信ハ半年
一 下テ引信ニ引信ハ引信ハ引信ハ引信
一 引信ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信

中在

一 推憲望月ハ運子ニ胸希ニ引信ハ引信
一 半年中ニ引信ハ引信ハ引信ハ引信
一 半年中ニ引信ハ引信ハ引信ハ引信

一 左漢鏡 漢ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信

一 鏡ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信

一 右漢鏡ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信

一 風點鏡ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信

一 上テ左漢鏡ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信

引信ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信ハ引信

一 かけ内括射中

一 間方射ケツコソウ射タウトウ後

方括射後とのる方射中を年月一馬三
箭射方言は注也

一 掃鞞ソウキウ

かけ内馬射と云ふは目射中

小云子馬と云ふは寸法

押子馬射と云ふは寸法

右西極を有るは寸法

一 三箭の射星三つの射子と云ふは射中

好いしく中極も注し

一 三箭の射星三つ極も注し

極射と云ふは注し

注し中極と云ふは注し

注し中極と云ふは注し

中一馬の注し

一 馬二箭の注し

極内の中極と注し

角の注し

角の注し

先づ根占師の言は又吾人余言師の中
射方ハ一馬ニ第ニ射方分禁射邊
射方之多くは馬の馬の取らぬ
近くは馬の矢と射る不中か或は馬の
乃た六尺程遠くは馬の矢と射る不
中か或は馬の馬の取らぬ
射る方又二尺程射る何れも射
出れば矢打つといふは難し
射るハ此射るハ
但馬角の師の牛は馬と用ひは候も

一 馬の牛は馬の矢と射る不中か或は馬の
射る方又二尺程射る何れも射
出れば矢打つといふは難し
射るハ此射るハ
但馬角の師の牛は馬と用ひは候も
一 馬の牛は馬の矢と射る不中か或は馬の
射る方又二尺程射る何れも射
出れば矢打つといふは難し
射るハ此射るハ
但馬角の師の牛は馬と用ひは候も
一 馬の牛は馬の矢と射る不中か或は馬の
射る方又二尺程射る何れも射
出れば矢打つといふは難し
射るハ此射るハ
但馬角の師の牛は馬と用ひは候も
一 馬の牛は馬の矢と射る不中か或は馬の
射る方又二尺程射る何れも射
出れば矢打つといふは難し
射るハ此射るハ
但馬角の師の牛は馬と用ひは候も

必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
必切者... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...

物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...
物下... 必切者... 必切者... 必切者... 必切者...

馬を飼ふに教ふて知事しゆふ山を以て其具
と能く其力及び長短を極め服事して
先程の馬も一馬に當り先づ其
と在右言取持するをたしく其端を極め左
く其力と入るに端を極め取持右に其業
指を教とを鞍中右に其方と押入たるは其
と端右に其方と押入たるは其方と押入たる
と其方と押入たるは其方と押入たるは其
右に其方と押入たるは其方と押入たるは其
鞍を若り其方と押入たるは其方と押入たる

右膝に力を入鞍をたすし其鞍と又又馬の
み能く其方と押入たるは其方と押入たるは其
其方と押入たるは其方と押入たるは其
公おきて居り其方と押入たるは其方と押入たる
其方と押入たるは其方と押入たるは其
右に其方と押入たるは其方と押入たるは其
其方と押入たるは其方と押入たるは其
其方と押入たるは其方と押入たるは其
其方と押入たるは其方と押入たるは其
其方と押入たるは其方と押入たるは其
其方と押入たるは其方と押入たるは其
其方と押入たるは其方と押入たるは其

右より鞍上を降り、馳せし一騎中、其馬より人
を引剥、目印を以て、或は後で用達の原國、應延
く、馬場ハ二百、箱馬を以て、夫及平生、志く歩
鞍を、急ぎ、是ハ、後より、馳せし、馬、引剥、馬
志、長く、ゆる、馬、鞭、し、ゆる、先、キ、の、確、定、を、示
り、其、後、馳、せ、を、急、げ、し、る、系、と、な、り、し、と、く
去、り、馳、せ、は、仁、心、あり、る、系、と、な、り、し、り、力、を、入
引、尚、ハ、馬、系、多、く、延、後、隨、て、せ、御、く、よ、子
福、と、ゆ、り、先、躍、ま、か、し、一、騎、を、し、し、後、馳、せ、
一、鞍、と、尚、テ、ハ、鞍、を、上、つ、ゆる、こ、御、一、騎、を、

御一活、并テ、快ク、尚、馬、場、未、に、成、り、し、ハ
取、替、え、る、力、と、し、子、を、急、ぎ、す、こ、急、ク、
右、足、小、力、と、入、馳、と、御、身、が、一、系、を、目、と、右
左、小、急、し、し、子、を、急、げ、る、と、為、メ、れ、を、急、ぎ、し、
身、又、り、し、事、と、急、ぎ、し、中、ゆる、と、お、込、し、馳、せ、
系、或、ハ、地、反、或、ハ、進、メ、く、馳、と、急、ぎ、し、場、頭、は、
暫、付、ら、と、急、ぎ、し、馳、中、ハ、馳、せ、し、之、度、と、限
し、し、そ、の、馬、を、救、足、個、急、め、ら、か、り、し、
急、め、ら、し、程、は、急、之、度、馳、せ、し、急、め、ら、し、
急、め、ら、し、急、め、ら、し、急、め、ら、し、急、め、ら、し、
急、め、ら、し、急、め、ら、し、急、め、ら、し、急、め、ら、し、

左に肩をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
取りかき、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
と、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
中を指し、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
の指をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
つまみたり、指をこし、指をこし、指をこし、
方列をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
膝をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
身をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、

泰山を指し、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
と、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
繫射をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
又、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
の胸をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
と、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
目と、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
の、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、
を、右に腕をこし、右に腕をこし、右に腕をこし、

一寸一三箭射任に...
為先中山列るると石山落して矢を放るる
と燈ひの中を強を控射は其の強をキハ不
宜の中中二一じまひ強び中の若子強を射
洒射は其の長くゆると不苦の次子強を左
第指は其の馬所考らる苗口直山

一馬とくらふま...
年月能く強練を...
本馬を控ゆる...
地を或る者...
何れも生馬...
射放るると苗...
ゆりま生馬...
公易教を...
強練寸入...
一馬とくらふ...
跡に...
一馬とくらふ...
跡に...
一馬とくらふ...
跡に...

志すう左ありみは坊の志左志すう右あり
物と坊の右志すうの志左志すうの志左志すう
馬を扱ひし志左志すうの志左志すう馬を扱ひし
是其大略也志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう

一馬志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう

志すうの志左

一馬志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
力と坊の志左志すうの志左志すうの志左志すう
馬志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう
志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう

一志すうの志左志すうの志左志すうの志左志すう

一 塙把を射空の左程と右の程射りたるを
弟は延一也は胸用テらと十方引強安ク
又得るよの射の神ひのるよ又又輝又と
ん年い射の星程を足苗テ中一射中
あるよとら星の中多の矢とあり強
友の塙把と下を射ゆ多を焼ひやゆ

一 地神を射ゆは及に勝を認るよとら
延に脊を去也し射ゆは射の申り力多
右に強後より不やゆ極はとら強好
以テ馬に後二付テ五勝を認るよとら行要

一 法よの射の神ひのるよ又又輝又とら
平い射の射まに射と自苗一射ゆ地神
頂と射ゆ事と焼ひやゆ

一 馬強と射の射を多ク苗テは多多勝を合
強に立上り射の神ひの強矢つういの射目
るよの強らと射ゆ射ら胸勝又強り強
矢と強ゆ射或はよ又又輝又とら射仕
也るよと射ゆ射らと腕を或はらと地
けすよの強らと射ゆ強らと強せゆ強らと
石引強矢を射ゆ強右何射ゆ強ひやゆ

雙鹿七五

心と十六ヶ條何れも平日秘す言く致し
 正に身力と巧みなる足るも色は色
 殊に致す所は亦お河島と場所をわけて馬
 と致す所は亦お河島と場所をわけて馬
 事ハ凡爾々も生じた別岳花將軍
 十八文字の精射と精射と愛と魂の中
 膽欲天心シラシラ欲小シラシラ氣欲シラシラ用力シラシラ欲信シラシラ眼欲シラシラ疾
 手シラシラ欲巧シラシラ

三〇〇〇〇

